

	項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
議題1 令和元年度の博物館活動について 議題2 新琵琶湖博物館創造基本計画にかかる行動計画 令和元年度取組状況について				
議題1 議題2		別館にUDの施設が整った。特別支援学校の生徒さんに好評であるが、展示室の中で、なにか障害のある子にも体験できるものはあるのか。	学校側からのリクエストにより、特別支援学校とも骨を触ったりといった連携をしている。	-
		資料のデータベース化の話があったが、データベース化されたものは、UD対応となっているのか。保存、アクセス部分での視覚障害者の使いやすさはどうか。	現在は、そこまではできていない。使いづらいところは、今後修正をしていきたい。	
		寄附金については、どこからいただいたか等についてHP等で公開されているのか。	館内の入り口近くに銘板を上げている。HPでも寄付いただいた方の紹介を行っている。	-
		移動博をビバシティなどの商業施設で開催され、盛況なようだが、5年後の国スポ、障害者スポーツ大会などとコラボして開催してはどうか。	「うみフェス」でボート場との連携は過去に行ったことがある。	-
		ナイトミュージアムは、雨の夜に他に行くところがなかったのか、大勢の人が来たのではないか。またバスでの来館も促進すべきではなかったか	バスの増便は行った。	-
		前の国体の時には、文化にも予算が付いた。	2020年のオリパラについては、文化とスポーツの両方を盛り上げるよう施策が進められている。国スポについては、まだ聞いていない。	
		子どもが虫好きだが、小学校中学年くらいになると、虫があまり好まれなくなる。梁山泊の活動には大変興味がある。応援したい。	-	-
		森の展示はどこにあったのか。	B展示室、C展示室にあります。	-
		中学生くらいになると、虫好きというのは孤立しがち。探究心を深く掘り下げていけるようにしたい。 自由研究が中学生は少ないが、出てくるものは素晴らしい。逆に賞を取って燃え尽きたようになってしまう子もいる。 本当に専門的に頑張ろうという子供たちをどんどん導いていただくとともに、探求心とか次につながっていく興味の原点のところを博物館に導いてもらいたい。	-	-

項目	委員からの質問・意見・提案等	協議会での回答	その後の対応
	幼い子の虫好きをどこまで持続させられるか。賞を与えるのはよくない面もある。高校生は知力を養う方が良いのでは。大人の理論を押し付けないように。	—	—
	昨年、科学の甲子園に3人出場できた。博物館の学芸員にも教えてもらった。 学校に生物部や科学部がないところもある。そういったところの子供にも梁山泊の活動を広げてほしい。	一人でも博物館に来たら研究を始められて、仲間が得られるみたいなどころをアピールしたい。	—
	子どもの理科への興味につながるような取り組みを博物館にもしてもらいたい。	—	—
	大人や、先生の子供への接し方を多様にできたらよい。好きなことがあればしっかり伸びてくると考える。	—	—
	網を持ったおとな、トンボとりをする大人もたくさんいる。そういうことも知ってもらいたいし、梁山泊はそれでよい。	—	—
	博物館に来る人は90%以上はテーマパークと思って来ている。上のほうの人が、梁山泊。真ん中にいる人を来館の2時間の中で、一歩でも階段を上るようにするのが博物館の役割ではないか。行動計画の中にも盛り込んでもらいたい。	—	今後の中長期計画の中で、博物館の役割について、考えていきたい。

議題4 その他

議題4	非常時に使える 資料の収蔵のスペースと梱包材の準備を博物館としてはしておくべきではないか。	—	今後の検討課題とさせていただきます
	UDについて整備していただいている。実際に使う当事者の立場でないといけない痛みとか気づきを教えてもらいなたら、リニューアルを行っていただいた。	—	—
	研究と私の生活がどうつながっているのかというのを、かみ砕いて説明するのが博物館のつとめでは。	—	展示だけでなく、研究だけでなく総合的な部分で博物館の展示を考えていきたいと思います
	ハナバイ祭り、虫送り、芋比べはどこの地域のものか	ハナバイは甲賀市大鳥神社、虫送りは信楽の多羅尾。芋比べは日野町のもの	—
	洪水の展示を残していただき、ありがたい。	—	—
	子供の研究では、導入の楽しさとシビアな本物の背中を見せることをやってもらいたい。	—	—
	単細胞の名前を覚えることだけではなく、田んぼ、琵琶湖の関係の中でどんな意味があるのかということ、ぜひ教えてもらいたい。	—	—